

- 日 時：2020年3月1日（日）
- 場 所：立川教会
- 説教題：「人はパンだけで生きるものではない。」
- 説教者：飯島 信
- 聖 書：旧約 出エジプト記 17：3-7（旧 p122）
新約 マタイによる福音書 4：1-11（新 p4）
- 讃美歌：58「み言葉をください」520「真実に清く生きたい」

新型コロナウイルスによる影響が全世界に拡大しています。

私たちに関わることも、先週の火曜日に日本基督教団議長と総幹事連名で、全国 1,700 の教会に指示が出されました。内容は、定例集会以外の集まりは自粛して欲しい、出来れば玄関受付には手指消毒用のアルコールを置いて欲しい、礼拝出席者はマスクを着用して欲しいなどです。幸いにマスクは、私の前の仕事であった東日本大震災で準備したものがあるので当面間に合いますが、消毒用のアルコールはお店では手に入りませんでした。

教団から指示が出た 2 日後の木曜日には、安倍首相によって全国の小中高校へ休校要請が出されました。この要請をめぐって、国内では大きな混乱が起きています。この時期の要請が適切であったかどうかは別にして、この要請によって生起する諸問題に、政府がどれだけ責任をもって対処出来るかが問われます。特に非正規労働者で、小中高生の子どもたちを持つ親は仕事を休まざるを得ず、首相が求める有給休暇などない中で、収入が激減して行くのが目に見えています。

前代未聞の出来事が起きていますが、しかし、情報に踊らされることなく、健康に最大の注意を払いながら、しっかり事態の推移を見守りたいと思います。

この事に関して、三男から矢継ぎ早にメールが入りました。様々な情報を集めて送ってくれるのですが、その中でも納得するものがありました。手洗い、うがい、濃厚接触、不必要な集まりは避けるのに加えて、最も対策に有効なのは、良質な睡眠と良質な食事で免疫力を維持することだと言うのです。確かにそうだと思います。どうか、それぞれ最善の注意を払いつつ、健康を維持したいと思います。

それに後一つ。

教会にも振り込め詐欺の電話がかかりました。

これまで電話番号が表示されるナンバーディスプレイは取り付けていなかったのですが、この間不審に感じる電話が続いたので、先週取り付けました。それが早速効を奏しました。

一昨日の金曜日の午後 4 時 5 分、呼び出し音が鳴り、出してみました。

ディスプレイには、03-6429-8945 という番号が浮かびました。受話器を取ると、丁寧な男性の声で「こちら立川市役所の保険の部署ですが、愛澤さんですか？」と聞くのです。私は、「愛澤と言う方なら今はこちらにはいません」と答えると、突然電話は切れました。

私はしばらくそのままにしていたのですが、ふと、「立川市役所なのに、都内の番号からかけている。おかしい」と思いました。そこで、市役所に不審な電話があったことを知らせました。しかし、市の生活防犯課の対応は緊迫感が無いので、折り返し立川警察に電話をし、事実を告げました。すると、しばらくして向うから改めて電話があり、担当の方から「振り込め詐欺に間違いありません。ディスプレイの番号の写真を撮りに行きたいが良いか」との申し出がありました。一人の若い刑事さんが見え、ディスプレイの写真を撮って帰って行きました。保険に関わる還付金詐欺とのことでした。因みに、彼は留学先のソルトレークシティで教会に行ったことがあるようで、鋭い目をしていました。

それでは、今日与えられた聖書の箇所に入ります。

マタイによる福音書 4：1-11（新 p4）、イエス様が悪魔の誘惑に遭われる場面です。

ここに、悪魔という言葉が出て来ます。サタンとも呼ばれています。

私は、悪魔とかサタンという言葉は、最近まであまりピンと来ませんでした。

現実に存在するのだろうかという疑問です。

ところが、年を重ねて来ますと、今では、本当に、リアルに悪魔の存在を感じるのです。年齢を重ねると共に、自分が肉において生きる肉的存在であると同時に、霊に置いて生きる霊的存在であることをより深く自覚することによって、サタンの存在がリアルになって来たのです。霊的に豊かになればなるほど、あるいは深まれば深まるほど、サタンの存在を感じ、その圧倒的な力を覚えます。まるで、比例するかのようです。

イエス様が、悪魔の誘惑に遭われたのも、40日40夜、昼も夜も断食をして、最も霊的に深まった時のことであると思いました。だからこそ、悪魔の誘惑を激しく覚えたのです。

ここに記されている3つの誘惑は、私たちが人生を生きる上で、誰もが必ず直面し、問われなければならない事柄です。しかも、曖昧な答えを許さない、YESかNOか、二つに一つの答えしか出すことの出来ない事柄です。何が問われているのかを見てみたいと思いません。第1の誘惑です。

- 1：さて、イエスは悪魔から誘惑を受けるため、“霊”に導かれて荒れ野に行かれた。
- 2：そして40日間、昼も夜も断食した後、空腹を覚えられた。
- 3：すると、誘惑する者が来て、イエスに言った。「神の子なら、これらの石がパンになるように命じたらどうだ。」
- 4：イエスはお答えになった。『人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる』と書いてある。」

人間の3つの欲求の中で、第1に挙げられるのが食欲です。続いて性欲、3番目が睡眠欲です。理由は種の保存に欠かせないからです。しかし、ここでの誘惑によって問われているのは、第1に挙げられている食の欲望に対する根底的な問いです。つまり、人は、食の

欲望が満たされるだけでは生きていけないと言うのです。なお一つ足りないものがある。それが、神様の教え、神様の存在を知ることです。

確かに、私たちは、生きて行く上でどんなにお金があっても食べる物に不自由していなくても、虚しさを抱えて生きる人生を知っています。それは、お金によってでは、物質によってでは、決して埋め合わせることの出来ない虚しさです。だからこそ、誰もが心の虚しさを埋めようとして、最後に行きつく先は宗教なのです。

しかし、出会った宗教で、真実に虚しさを埋め合わせることが出来るでしょうか。

それが可能となるのは、真の創造主と出会えた時です。私たちに命を与えて下さった創造主、主なる神に出会えた時です。

第一の誘惑に対するイエス様の答えは、人生の目的、それは食の欲望を満たすことではない、創造主なる神様と出会うことであるとのことでした。

第2の誘惑です。

5：次に、悪魔はイエスを聖なる都に連れて行き、神殿の屋根に立たせて、

6：言った。「神の子なら、飛び降りたらどうだ。『神があなたのために天使たちに命じると、あなたの足が石に打ち当たることのないように、天使たちは手であなたを支える』と書いてある。」

7：イエスは、「『あなたの神である主を試してはならない』とも書いてある」と言われた。

この誘惑ほど、私たちの信仰を問うているものはありません。

以前お話したことがあります。現在キリスト教人口が一億を超えている中国の教会の礼拝説教で、繰り返し言われていることがこの第2の誘惑の問題です。それは、信じたら何か良いことがあるのではないかと期待する御利益宗教としての誤解に対する注意であり、又そのような期待を持つ私たちの信仰の問題です。特に、献金をする際に常に起こり勝ちな事は、献金が、今このように生活出来、この1週間も守られて来たことに対する感謝からだけではなく、何か良いことを期待する気持ちからなされることへの警告です。

まさに、献金によって、あるいは奉仕の業によって、神様を試しているのです。

しかし、私たちにとっての信仰生活とは、御前にあって、誇るべき何ものもなく、自己中心にしか生きる事の出来ない私たちの罪を赦し、私たちを捕らえ、用い、祝福して下さるお方に、懺悔し、感謝する歩みなのです。

そして、最後に第3の誘惑です。

8：更に、悪魔はイエスを非常に高い山に連れて行き、世のすべての国々とその繁栄ぶりを見せて、

9：「もし、ひれ伏してわたしを拝むなら、これをみんな与えよう」と言った。

10：すると、イエスは言われた。「退け、サタン。『あなたの神である主を拝み、ただ主に

仕えよ』と書いてある。

この誘惑は、実に厄介な問題を、しかし最も身近な問題を私たちに問うています。

「世の全ての国々とその繁栄ぶり」とありますが、言い換えればこの世の権力・地位・富・名誉・財産とも言えるものです。さらに言えば、これらさえあれば、人生に一体どのような不平・不満が生まれるのでしょうか。誰もが夢に見る何の不自由のない生活、それがこの言葉の意味です。そして、「ひれ伏してわたしを拝め」と言うのは、実は、この言葉を語るサタンこそ、「世のすべての国々とその繁栄」を象徴し、サタンはイエス様に向かって「世の権力・地位・名誉・富・財産」に跪（ひざまず）くようにと言ったのです。

この言葉に対するイエス様の拒絶は、激しいものがありました。「退け、サタン」です。何故でしょうか。

この問答無用とも言うべきイエス様の言葉は、サタンの誘惑が、拝すべき真実の主なる神を否定し、時と共に朽ち果てる虚しいこの世の宝を拝む偶像礼拝に他ならなかったからです。

しかし、どうでしょうか。

私たちは、このサタンの誘惑に対し、きっぱりと否を言うことが出来るでしょうか。厳しい問いかけです。

まず、権力です。

次に地位です。

さらに名誉です。

そして富です。

最後に財産です。

一つひとつを取り上げることはしませんが、権力が与えられ、責任ある地位に就く事によって、初めて出来る仕事があります。

主任、総幹事、担当幹事、事務局長、委員長など、その地位にあったからこそ出来たことがあり、地位から外れれば出来なくなるのです。

又、これまでの業績に与えられる名誉、額に汗して働いて得た富、財産・・・。

イエス様が断固退けられたのは、それらに跪くことでした。

つまり、それらを偶像として拝することです。

問題は、与えられたそれらを、人間である自分の栄光を現すために用いるのか、神様の栄光を現すために用いるのかです。

サタンの誘惑の激しさ、それを退けることの困難な現実があります。

だからこそ、日々己の内に戦いが訪れます。

朝に夕に、偶像ではなく、神様を礼拝することにです。

しかし、この戦いに勝利させるのは、人の努力ではありません。

ただ、神様の霊的な導きによる以外にありません。

祈り、神様からの導きを待ち、受け入れる者となるのです。

そうした時、11 節、

11：そこで、悪魔は離れ去った。すると、天使たちが来てイエスに仕えた。
そのような時が訪れます。

イエス様の荒れ野で遭われた誘惑は、全き神にして全き人であることを指し示す出来事でした。そして、全き人としてのイエス様は、サタンの誘惑を退けられました。

私たちが又、イエス様に倣い、誘惑に打ち勝ち、キリストの香りを放つ者となろうではありませんか。

祈りましょう。